

く疑はしきをかきて、識者をまつのみ、

〔世俗淺深秘抄上〕一雨日行幸之時、次將奉仕御輿雨皮役事、第一大事也。略 御輿固於路次覆事、於

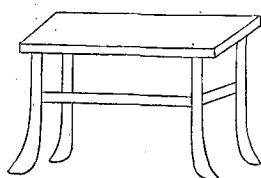
四辻大略覆之、必向東面、南面、敢不向西面北面也。伏樽、軒可安其上也、其儀如堂上、

〔明月記〕建永元年六月十三日、少納言長季鈴奏了寄御輿。略 自出門程大雨。略 中予○藤原資家奉

仕之間に、御輿南面に奉居。伏天敷之

〔貞丈雜記與七〕一こし。臺とは、こしの長柄をすへおく物也、まな板のごとくにして四足あり、本名を

ばまぢと云也、榻の字也、車に召る、時用之、



榻如此物也。車のまぢは、金物もあり、あげまきを付るなり、

〔宗長息女婚禮記錄〕息女出給ふ時。略 中 道具の順は、二の門にて定候也。略 中

道具輿以下次第之事。略 中

五拾 御輿臺

〔扶桑略記二十九條〕治暦五年。元延久 三月十五日壬午、行幸石清水、此日於朱雀院東門前、御輿枋損、召

内匠寮、即令修補、十六日、還御之間、同枋破損、後日、右中辨隆方朝臣、有所恐懼、依爲裝束使也、

〔北山抄九〕行幸

少納言奏鈴訖候、御輿於南階上簀子敷。略 中 主殿寮撤御輿覆、上臈次將開輦戶。置輦管後閉之 自餘臥弓跪

候、